

隔月連載

造る喜び、 住まう喜び。

<http://www.fphome.jp/lia/>

新しい家のカタチ、 リノベーション。

取材協力 / lia Style (株式会社FPホーム)

マイホーム造りを予定している
オトン世代予備軍も多い中、
新築一戸建て、マンションといった
選択肢に加えて近年人気が高いのが、
住宅の「リノベーション」だ。
いま、新しい家づくりのスタイルで
注目を集めるプロジェクトチーム、
「lia Style」(リア・スタイル)の
チーフプロデューサー、
治部泰久さんにお話を伺った。

住まいづくりは、今よりもっと自由になれる。

— 近年需要が高まっている「リノベーション」ですが、どんな魅力があるのでしょうか。

「大きなメリットとしては、気に入ったエリアで家を購入しやすい、トータル価格が安く抑えられるという点でしょうか。一戸建てでもマンションでもリノベーションは可能ですから、『雪かきの心配がないマンションにしたい』『小さくとも庭は欲しい』『犬と一緒に暮らしたい』など、それぞれの理想に柔軟に対応できる選択肢の幅広さも大きいでしょう。また、今ある建物を大切に住み継ぐという点で考えると、究極のエコロジーとも言えますね」

— これまで新築二戸建てを手がけてきた「lia Style」でも、最近マンションのリノベーションを手がけられましたね。

「チーム初のリノベーションでしたが、マンションという限定された空間、駆体や開口部は変えられないという制約の中で設計をする難しさと、だからこそ面白さがありました。今回の物件に限らず、僕らがいとも大切にしているのは、住む人がホッと落ち着けて『何かイーンだよね...』と思えるような、シンプルで美しい空間。リノベーションだからと施工前・後の違いを視覚的に分かりやすくするために必要以上に色や装飾を加えることはしたくなかったです。むしろいつもと同じく、無色透明な空間を目指し

ました。色はそこに住むご家族がつけていけばいい訳ですから。いずれにせよ、家づくりを考

える時は新築・中古・リノベーション、一戸建・マンションと、最初から決めてかかる必要はありません。誰とどんなふうにごしたいか、そのためにはどんな家づくりがいいのか。それをじっくり連想して、さまざまな選択肢の中から最高の住まいを考えてほしいと思います」

治部 泰久さん



1973年生まれ、下川町出身。「lia Style」(株式会社FPホーム)チーフプロデューサー。「会話から始まる家づくり」をテーマに、新しい家づくりのスタイルを提案している。

『格好イイけど格好つけていない』
「lia Style」6リノベーション。



リノベーション前の室内。居間と和室の間の壁は取り払い、キッチンの方も移動した。

大通公園と地下鉄駅に近い、利便性抜群の中古マンション。その一室が「lia Style」の手で生まれ変わった。白を基調とした空間に無垢材の暖かな色合い。リビングと和室の間仕切り壁は取り払い、広々とした一続きのリビングダイニングが完成した。天井際の間接照明は、空間の美しい輪郭を浮かき上げさせている。寝室の壁はあえて天井よりも少し下げ、室内でも陽の光が感じられる造りに。スイッチ一つからオリジナル家具に至るまで、細部にことごとこだわる「lia Style」の持ち味もフルに発揮された。チームの家具職人達が手がけたダイニングテーブルやイスの質感、キッチンなど水周りのデザインにも深いこだわりが感じられる。(オープンハウスは9月17日までで終了)



1.広々としたリビング・ダイニング。2.白壁と無垢材の床が美しい廊下。3.寝室の壁は天井との間に心地よい「あき」がある。4.キッチンの背面を開けると収納力抜群の棚。5.メインの窓から陽が贅沢に差し込むダイニング。



lia Style 08 Model[Re:A] (札幌市中央区) 「lia Style」についてのお問い合わせは「株式会社FPホーム lia Style事業課」TEL.011-795-7602まで。